

2016年

「一瞬の夏」に想いを

夏のダンス部大会を斬る！

文=石原 久佳 (本誌編集長)

ダンスク!アワード 2016 Summer



ベストコスチューム

東京都立鷺宮高等学校 8/2

コンセプトの表現、ストリート感、ステージ衣装の華やかさ、ダンスとのマッチングをバランス良く形作った衣装。



ベストインパクト

品川女子学院 8/2

毎年、コンセプト作りがうまい東京の人気校。テリー伊藤さんも絶賛していたお坊さん×ダンスというテーマとストーリーがキャッチー。



ベストコンセプト

群馬県立安中総合学園高等学校 8/17

意外にレベルの高いチームを輩出する群馬のNo.1スクール。強靱なヒップホップダンスの上に、アブノーマルな世界観を作り出した創造性とチャレンジ精神！



ベスト中学生チーム

樟蔭中学校 8/23

振付けや構成も素晴らしいが、それぞれの動きを最大限大きくとっている意識が何よりも良い。動きの数よりも、動きの大きさがポイント。



ベストクリエイティブ

北九州市立高等学校 8/2

LINEの着信音をカッコ良くダンスビートにミックスし、アニメーションダンスを群舞に活かす。ダンス部界では新しいアプローチ。



ベストコレオグラフ

大阪府立久米田高等学校 8/2

圧倒的なスピード感と予測のつかないフォーメーション展開。ドキドキハラハラ。観客の目と心理操作を意識した振り付け。



ベストチーム

登美丘高等学校 8/17

昨年に続いてビッグクラス優勝、ダンス部界の王者である。段違いの技術・体力を元に、群がアメーバ状に伸び縮みする表現は登美丘ならではの。高度なスキルをクールに笑いに昇華させているレベルがすでにプロ級。

【取材大会】

- 6/6 第4回日本ダンス大会
- 8/2 第4回全国高等学校ダンス部選手権(DCC)
- 8/16-17 第9回 日本高校ダンス部選手権(ダンススタジアム) スモールクラス決勝(8/16) / ビッグクラス決勝(8/17)
- 7/18 高校生ライブMUSIC DAYS2016東京大会
- 8/23 高校生ライブMUSIC DAYS2016相模原・町田大会
- 8/20 USA School & College Competition 2016 HipHop部門

★全チームレポートは **DANSTREET** へ!

>>各大会の全チームレポートが DANSTREET (danstreet.jp) にて 写真付きレビューされています。

のダンス要素が薄れてきたり、一歩間違えば大会が仮装大賞のようなノリになってしまうので、パランスの取り方は常に考えていきたい。良い演出力のあるチームは、あまりネタを詰め込みすぎず、高い客観性を保ち、押し引きを効かせつつ、ダンスも含めて自然に観客を引き込んでいるのだ。

構成力の特徴

演出力にも関連することだが、「見せ方」という部分で大所帯を活かす構成力のレベルアップも見逃せない。構成力とは、言い換えれば観客の心理操作なので、いかに飽きさせず、予想させず、期待させつつ、膝を打たせるか、という印象を作っていくか。ダンス部の特徴として「出八ヶの多さ」「頻繁なフォーメーションチェンジ」「パレル展開」「ジャンル複合」というあたりが特徴として上げられる。特に今年は、複数のダンスパートをパレル展開し、観客の視線を効果的に散らす振り付け作品が印象的だった。

音楽に対する意識

1曲使いという場合もあるが、ほとんどの場合は複数の曲をミックスしてダンスパフォーマンス



ベストアーティスト

大阪市立汎愛高等学校 8/16

ダンスのアーティストとしての美しさを見事に表現。後半はエネルギー溢れるパフォーマンスに展開。



ベストダンス

同志社香里高等学校 8/17

登美丘と双璧を張る関西の雄。水の美しさを表現する創作的な前半から、鉄板のワンナイトオンリー展開を見せる後半で観る者を圧倒する!

ダンス力の西高東低

西日本、特に関西の「ダンス力」の強さは依然として増している。それはダンススタジアムのビッグクラス後半のチーム勢に顕著に現れた。具体的には、体幹力と下半身の強さが生み出すパワーとスピード、オールドスクール系ダンスの地力とユニゾン力によるグルーヴとチームワークだ。関東勢がここに対抗するためには、基礎練習の見直しや、交流練習会を開くなどして、全体のベースアップを時間をかけて図っていくしかないだろう。筆者が見たところ、関西勢の練習の比重は明らかに筋トレやアイソレなどの地道な基礎練習にある。我が国と世界のスポーツ大国の選手の決定的な違いは、フィジカルトレーニングへの意識だ。技術習得の前にカラダを作る。カラダが出来ていなければ、せっかくのアイデアも技術も活かしきれない。部活としてダンスに取り組むのだから、ぜひ全員が土気度効果的な「ダンス力」作りを励んでほしい。

この夏も多くのダンス部大会が開催された。地方大会まで含めると、本誌も把握しきれないほどの数に上っている。中には、地域の街イベントなどからダンス部に声がかかることも多くなったように、ダンス部の健全なパフォーマンスが社会的にも優良なコンテンツとしても認められ、その活躍がさまざまな場所で増えているという状況である。

主要大会に関しては、出場校の増加に伴ってそれぞれ規模を拡大している。数が多くなったからと言って質が薄まっているわけではなく、全体としてパフォーマンスのレベル自体は向上しており、取り組みへの熱気も上昇傾向。決勝大会のレベルまでなると、戦略的に「勝ちにきている」学校が多く見受けられ、強豪校が雌雄を決するせめぎ合いがダンス部大会の醍醐味と言える。

本誌では、関東圏の主要大会のほとんどを取材し、その全チームをDANSTREETサイトで即日に速報レポート、大きな閲覧数と反響を得た。詳細や受賞結果はぜひサイトをご覧いただきたいが、ここでは別に本誌の観点で優れたチームを「ダンスク!アワード」として写真付きでピックアップしてみた。

また、今年の出場チームの傾向と課題や雑感を以下にまとめてみたので、宜しければ今後の参考にしてみてください。

演出力のレベルアップ

関東圏のチームを中心に、まずココが格段にレベルアップしている。総じて高校ダンス部はスキルやグルーヴ力よりも、こちらの方に特徴がある。作品のコンセプトや世界観を、部員全員でワイワイとアイデアを出しながら、話し合い、考え抜き、みんなで形にしていこう過程は、非常に部活らしく、教育的な側面があると言える。今年も、さまざまな衣装と音楽と振り付けに工夫が凝らされた、ストーリーものやパロディものの作品が見られた。この自由さ・寛容さ・新しさはこれまでのストリートダンスシーンにはなかったもので、ダンス部のパフォーマンスの社会性やポピュラリティを表わしているところだ。しかし、こちらにあまりに凝りすぎると、肝心